



第 31 号
令和 2 年 3 月 10 日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

令和二年 春季彼岸会法要 本年中止

法要中止のお知らせ

新型コロナウイルスが問題になっていきます。この病気は、高齢者が感染発症した場合は、重篤になるケースが多く、近い距離にいることによって伝染するようです。毎年、当山では春のお彼岸には、法要を行い、ご先祖様の供養を行うと共に、そのお陰で今の自分が存在し、その命の尊さを再確認して、今生きて



いる事を大切にできる機会としていきます。しかし、ここ数年、参詣者も増え、昨年は百八十人近くの方がお参りに来られました。本堂にこれだけの方が集まった状態は、まさに密着接触。ウイルスが蔓延しやすい状態になります。熊本市内の曹洞宗寺院は、お彼岸の期間中、毎日順番に法要を開催して、僧侶同士もお互いに行き来して手伝えることになっています。みんな話合つた結果、今年は熊本市内の曹洞宗寺院は、各寺の

供養の儀式は行いが、壇信徒の皆様が集まって貰う事は避けようと言う結論になりました。法話やだご汁等(当山の場合)も含め食事と会話を楽しみに行っている方も多いかと存じますが、以上の理由で法要の中止という形で供養は僧侶のみで行う事に致しました(内献供養と言います)。ご理解戴きますようお願い申し上げます。

お彼岸の由来 5

毎年、この寺報に彼岸に関するお話しを書いてきました。これで5年目になりました。毎年、書いていますが、彼岸とは、向こう岸つまり、悩み苦しんでいる我々が生きていく世界(娑婆世界)に對して煩惱の苦しみを解放された世界を意味します。つまり悟りの世界即ち仏の世界です。お釈迦様は一切衆生悉有仏性。全ての人は本来の姿は仏であると説かれました。特別に天から選ばれた人や特別の修行

をした人だけが仏になる。悟りを開けるとは言われていません。ただ、我々生きていく人間は、沢山の煩惱や欲望があります。そして煩惱や欲望は叶い満たされるものではありません。しかし、それが叶いますようにと悩み、満たされたいからと苦しみます。これを執着と言います。この執着から解放されるためには、日常をキチンと生きていく事が大事です。これを修行と言います。そして、執着や煩惱の元を三毒と言います。三毒とは「貪瞋癡」つまり、「むさぼり、怒り、愚かさ」三毒に惑わされる事が無いように、執着から解放されるようにする必要があります。つまり、欲は少なく、満足する事を知り、群れを作って騒ぐ事なく、静かに努力を続ける。これがお釈迦様の基本的な考え方です。そして、正しい日常生活を送るために様々なアプローチの方法が作られました。その方法による分類が色々な宗派です。曹洞宗の基本的なアプローチの方法は、坐禅であり、キチンとした日



コロナウイルス

現在、報道は殆どが、この話題です。しかし、その情報量の割には隔靴搔痒の感じがするのは何故でしょう？新聞であれば読者、マスコミであれば視聴者がどう言う情報を欲しているかは分かる筈です。確かに、今回の

常生活を送る事です。しかし、言葉で示せば、簡単に見えますが、実際に言う事は難しいものです。私達は、今この瞬間も生きています。そして、この命を与えてくれたのは、親であり、先祖です。そして、そのご先祖様方は、仏様として生きています。我々を見守ってくれています。だからこそ、供養という形でご先祖様方に感謝の意を表する。これが彼岸の先祖供養の意義だと私は考えています。

ウイルスは新型で、予想がつかない所があるのは分かります。しかし、出る情報は、記者クラブII政府が出す情報に限られていますし、内容的には、徒に恐怖心や猜疑心を煽っているように見えるのは私だけでしょうか？逆にネット情報は、公的情報は嘘で固まっています、この情報こそが真実だと言わなければならないものになります。そこに国際陰謀論まで出ている状況。人々が求めてるのは日常の安心の筈だと思いません。日本人の民族的な劣化もよく言われます。果たして、そうでしょうか？私には、政治家や官僚等の日本のエスタブリッシュメント層の劣化は感じますが、一般大衆、特に若い世代の忍耐強さも同時に感じます（バブル期に青春をおくった四十代後半から五十代前半は別ですが）。日本は争い事を起こしてまで略奪する国ではないと思えます。グローバルリズムの名の下に経済成長だけを望むより、安心して直向きに努力する人達が国力を支えてきた事を想い出して欲しいものです（ウイルスと話が逸れました。申し訳ありません）。

（ません）。一つだけ気になる事があります。現首相が憲法改正できなくても、緊急事態の有事立法は手続きを飛び越えてやれるという既成事実を作ろうとしているとしたら怖いなと思いません。そうなりません様に。

今こころにZEN

ジャズのライブを始めて十年を超えました。鈴木良雄さんがずっと支えてくれています。仏教講演会も、あまり他宗派や他の寺院で扱わない宗教を越えてのディスカッションを始め面白がつてくれる人も増えてきました。昨年は、同じ宗派の僧侶ですが、薬剤師としての立場から仏教を語る太瑞知見老師に語ってもらい、興味深い智慧を頂きました。鎌倉時代に世相が荒れた時に新しい宗派の鎌倉仏教が生まれたように、現代も人心の荒廃と劣化が再び仏教を呼び寄せているのではないかと言っています。私には曹洞宗の僧侶です。特に関心を感じます。又年齢のせ



私には曹洞宗の僧侶です。特に関心を感じます。又年齢のせ

いかもしれません。お釈迦様の教えは、今の時代の価値や人間にとって大変有効なものだと最近特に感じます。



戦後、宗教は非科学的なものとしてインテリ層から敬遠された事もありましたが、インテリの知識だって人間が作り出した限界のあるもの。一見非科学的なもの。だが後になって有用なものだと変わる事もあります。僧侶である私ができるのは、仏教や宗教の大切さ、特に禅の有効性を分かり易く紹介していく事ぐらいですが、今、その大切さを再認識して広く一般に対してアピールしていこうと思っています。いづれにせよ、音楽はやめられませんが、ジャズ屋の血は、まだ流れています。

す。東京の一流と言われるジャズマンも応援してくれています。私の道楽から始まったイベントですが、その分オリジナルなものです。苦肉のテラカッ（寺活）イベントにならぬよう頑張っています。



令和二年 浄国寺予定

- 四月二十九日(水) 午後一時 松本喜三郎 墓前祭
- 喜三郎翁 追悼供養
- 谷汲観音供養 その他
- 七月三日(金) 午前十一時 施餓鬼会 法要
- お盆壇信徒先祖総供養
- 十月十七日(土) 午後六時 「いま 心ZEN」 仏教講演会
- 併設企画「お寺でジャズ」 鈴木良雄 (b) & 山本 (d) ジャズ・デュオ 剛

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて

一炷(約四分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は「佛遺教経(八大人覺)」。会費会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい。

身辺雑記

昨年十月より幼児教育・保育の無償化が始まった。最初は教育部分だけの無償化だった。いつの間にか保育も加わり、保育所の費用も加わり所謂託児の料金もタダになった若い世代の親にとっては金銭負担は軽い方が良く決まっています。特に景気低迷の今は。しかし、文科省は無償化に向けて十年かかったのが、厚労省は一瞬にして予算を獲得した。公益とは言え福祉と教育は目的が異なる。金銭換算で考えれば、教育は投資、福祉は補填になる。投資は結果が不確定であり可視化が難しい。しかし教育という投資を行わなければ劣化は進む。その点、補填は結果が一目瞭然であり、政治家にとっては業績として目に見える。畢竟、厚労省は予算が潤沢で、文科省はいつまでも三流省庁のまま。幼稚園長として歯齧みして、三十年。「子どもに金をかける」と言い続け、たまりかねた結果、認定こども園に移行した。管轄は内閣府だ。驚いた。暫定措置とは思いますが、この省庁は極めて近視眼的に動く、一貫性がない。その時の内閣次策、首相次第で方針が変わる。年寄りがそれで権力闘争するのは勝手だが、子どもの未来を左右するのはやめて欲しいものだ。政治には全く興味は無いが、現政策では少子化に歯止めはかかるまい。生まれた我が子が希望を持って苦勞するのを見えていて、子どもを作ろうとする親は増えては来ないであろう。